

# 6 女性の人権に関する意識と実態

## 女性の人権が尊重されていないと感じるのは、主に身体におよぶ行為の場合

「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」や「家庭内での夫から妻への暴力」「ストーカー」「痴漢行為」「買春」といった主に身体面におよぶ行為に対して、女性の人権が尊重されていないと感じる割合が高くなっています。一方、言葉や視覚的な表現をしているものに対しては、人権が尊重されていないと感じる割合が低くなっています。

## 精神的暴力のとらえかたには個人差がある

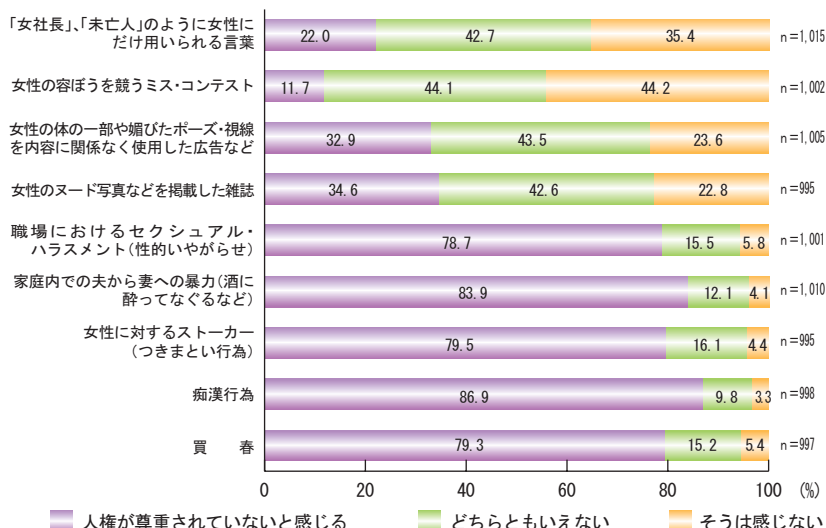
身体におよぶ暴力については、72.5%から98.3%の人が暴力とみなしていますが、ポルノ雑誌を無理やり見せたり、言葉で責めたり、監視・無視をするなどの精神的暴力については、約3割(30.8%)から約6割(63.3%)の人が「暴力の場合とそうでない場合がある」と感じています。

特に「大声でどなる」行為については、「どんな場合も暴力にあたる」とみなす人が21.1%にとどまり、暴力として認識されていないことがわかります。

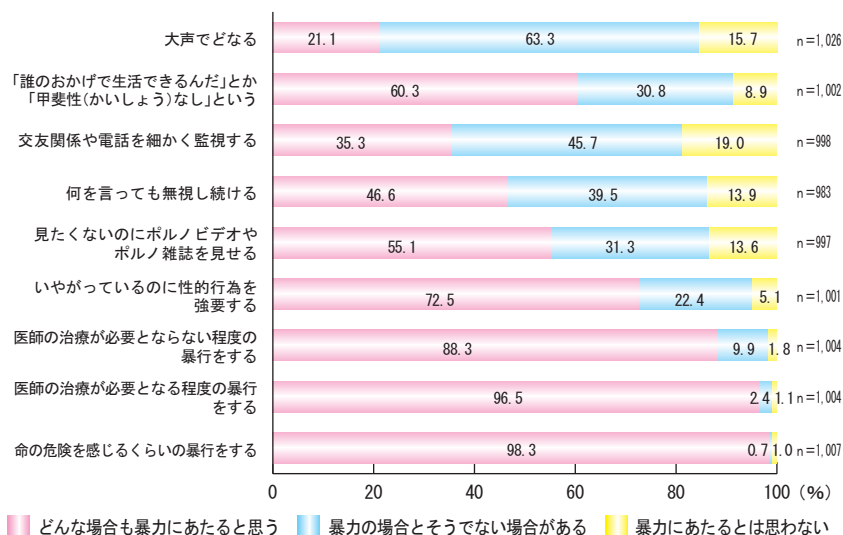
## 何らかの暴力を受けた経験がある人は、女性約4割、男性約3割

対象者のうち、実際に夫や妻、恋人から何らかの暴力を受けた経験は、女性は約4割(40.5%)、男性は約3割(30.5%)となっており、男女間で10.0ポイントの差が現れています。男女とも「大声でどなる」経験を持つ人の割合が最も高くなっており、このほかには、女性では「いやがっているのに性的な行為を強要される」、男性では「何を言っても無視され続ける」経験を持つ人の割合が高くなっています。

## 女性の人権に関する意識



## 夫・妻・恋人からの暴力に対する意識



## 夫・妻・恋人から暴力を受けた経験(MA)

